

未 来 の 芸 術 家 支 援

のれん百人衆

令 和 6 年 度 活動報告書

この度は、皆様から本学に厚いご支援をいただき、心から感謝申し上げます。
皆様から頂戴いたしました支援金により活動している団体について、ご報告申し上げます。

巖本 博

巖本金属(株) 代表取締役社長

株式会社SGC

株式会社大垣書店

株式会社祇園辻利

北尾 哲郎

日東薬品工業(株) 代表取締役会長

一般財団法人京都花鳥館

京料理 やまの

株式会社キング

株式会社コスモネット

ジェイアール東海関西開発株式会社

株式会社島津製作所

株式会社聖護院八ッ橋総本店

株式会社ゼロホールディングス

医療法人知音会

株式会社長栄

天ぶら圓堂

株式会社東邦レオホールディングス

東レエンジニアリング株式会社

株式会社トーセ

戸塚 亮一

(株)ベビシュタイン・ジャパン 代表取締役会長

株式会社内藤建築事務所

一般財団法人NISSHA財団

公益財団法人日新電機グループ
社会貢献基金

畑 正高

(株)松栄堂 代表取締役社長

株式会社堀場製作所

渡辺 孝史

(株)一保堂茶舗 代表取締役社長

令和6年度 御支援者様（敬称略／五十音順）

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —



ご支援いただいたみなさまへ

2023年10月に新しいキャンパスへ移転してから、早くも一年半が経過しました。当初、落ち着かない様子だった学生たちも、今では新たな環境に完全に順応し、それぞれの制作や演奏活動にますます熱心に取り組んでいます。

この一年を振り返りますと、充実した制作・練習環境と、アクセスの良い発表の場を手に入れた学生たちは、より積極的に社会に向けて自己表現を行いながら活動している様子が伺えます。その過程において《のれん百人衆》の皆様からの温かい支援が、学生たちの成長に大きな力となっております。学生、教職員一同、心より感謝申し上げます。

この報告書で学生たちの喜びと感謝の気持ちを伝えることができ、彼らの内に秘めた情熱と才能の輝きを皆さまにお届けすることができたなら、これ以上の喜びはありません。

今後とも、芸術文化の継承と発展を担う学生たちを温かく育てるため、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

公立大学法人京都市立芸術大学理事長・学長

赤松 玉女

博士課程の学生による日本画展「間のながれ」への活動支援

日本画展「間のながれ」

美術研究科博士課程後期

日本画領域専攻 4回生 沈 楠

会期：令和6年9月10日～9月15日

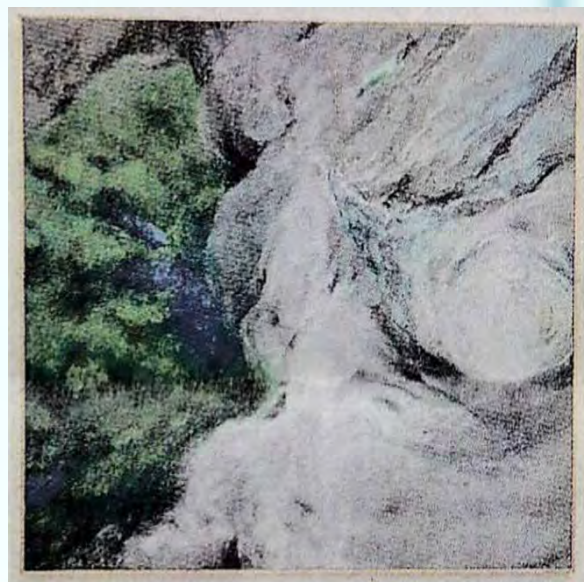
会場：ギャラリー恵風 1F

(左京区丸太町通東大路東入ル)

活動を終えて

今回が初めての個展。ギャラリー恵風で1週間開催しました。展示作品は昨年から今年にかけて制作した日本画です。博士課程の前段階の反省と思考、そして現段階の改善と再探索が含まれています。展示期間中には幅広い方々にたくさんの評価をいただきました。

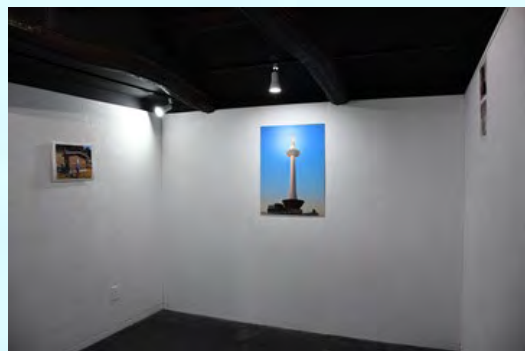
このような意見交換を通じて、作品は新たな視点で展開していく可能性があると感じます。普段の制作や研究で気づいてないことに改めて思考を促させられます。また、これから残る1年間の博士課程の研究をどういうふうに仕上げるのかということに対して、今回の展示はとても重要な段階となりました。



のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

展示費用のご支援をいただき誠にありがとうございます。ご支援を頂いたおかげで、様々な気づきや学びが得られた良い展示会にすることができました。また、今回の展示から得られた経験を活かし、日々の研究や制作に取り組んでまいります。

学部生による二人展「The nothing of photography / The number 2 for photography」への活動支援



The nothing of photography/The number 2 for photography

美術学部版画専攻4回生 田中 茜乃介

美術学部構想設計専攻4回生 東久保 然

会期：2024年7月30日～8月4日

会場：Art Spot Korin

(京都市東山区元町367-5)

活動を終えて

今活動では、写真そのものをテーマに据え、二人それぞれの視点から写真に対するアプローチを試みました。展示会場には展示に関するテキストを配置、配布するとともに、全日在廊し鑑賞者と直接話をし、説明することで、写真そのものについて、我々だけでなく来てくれた人も含めて思考することができたと思っています。

また、展示期間中に展示空間内でレセプションパーティーを行い、作品を前にしながら、お酒や食事をしながら交流し、より気安く議論を交わすことができました。

今回の展示は関西の芸大生向けの公募展、リレー形式の展示であったため、他大学の学生や先生、また実際にアーティストとして活動している方、展示したギャラリーと連携しているレジデンスの海外アーティストとも交流を広げることができ、刺激を受けるとともに、さらに芸術を深めたいと思うことができました。

初めての展示であったために、作品制作だけでなく、展示をするということについてより考え方が広がり、自分の作品をどのように提示すれば良いかなどに対しても考えていきたいなと思うようになりました。

のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

今回はのれん百人衆助成金をご支援いただき誠にありがとうございます。皆様のご支援により、学外での初めての展示という経験ができ、また大学生だけではなく広い交流を広げられたこと、一つの展示を完成させることができたことを大変嬉しく思っております。この経験を通じて、さらに制作に尽力して参りたいと思います。本当にありがとうございました。

染織専攻学生の学外展示「Cross Cloth Close」への活動支援

Cross Cloth Close

京都市立芸術大学 染織専攻
学部4回生・院1回生 学外展示
会期：2024年7月16日～7月21日
会場：MEDIA SHOP | gallery 1-2
(京都市中京区河原町三条下一筋目東入
大黒町44 VOXビル 1-2F)

活動を終えて

「Cross Cloth Close」は、京都市立芸術大学 染織専攻に所属する学部4年生9名と修士1年生5名の合計14名による展示で、前期に制作した作品を教員の指導無しに自主的に大学外部で展示することで費用から展示計画、空間設計、照明演出などの運営をより理解することを目的として開催致しました。14人全員が代表・副代表・搬入出・会計・DM作成・キャプション作成・会期中シフト作成のいずれかの役職につき、定期的なミーティングを重ねながら準備にあたったことで、搬入出、会期中ともに問題無く運営することができました。今回の展示でギャラリー選びや日程の確保、広報や金銭の管理など普段大学の制作展では先生方や事務局の方々が管理・運営してくださっている事を全て学生で行ったことによって各々が改めて展示運営の難しさを体感することができました。

のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

この度、京都市立芸術大学 染織専攻の学外展示「Cross Cloth Close」へのご支援をいただき、誠にありがとうございました。頂戴いたしましたご寄付は展示運営にかかった経費に充てさせていただきました。今後ともメンバー一同、一層の精進を重ねて参ります。改めて暖かいご支援をいただき深く御礼申し上げます。



有志学生による「ファッションショー」への活動支援

ファッションショー

本活動は服飾科を持たない大学の有志学生が主体となり、ファッションショーを開催することです。本年度は参加学生が大幅に増加し、専攻も多岐にわたりました。衣装制作、モデル、映像制作、カメラマンなど、ショーに関わる全ての工程を本学の学生たちが手掛けました。また、今年は新たな試みとして、本活動を広く発信することを目的に、参加者の作品を収録したアートブックを制作、販売しました。



活動を終えて

本年度の活動を通じて、多様な専攻の学生が集まり、それぞれの視点が交わることで新たな可能性が生まれることを実感しました。異なるバックグラウンドを持つメンバーが協力することで、創造性が高まり、より充実した内容のショーを実現することができました。

さらに、新たな試みとして制作・販売したアートブックは、団体の認知度向上に大きく貢献しました。これにより、ショーの来場者以外にも活動を知っていただくきっかけとなり、より多くの人々に私たちの作品を届けることができました。

来場者の方々と直接交流する機会も生まれ、貴重なご意見や感想を伺うことができました。この対話を通じて、活動の意義を再認識するとともに、次年度への新たな課題や可能性について多くのヒントを得ることができました。



のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

このたびは、ご支援金をいただき心より感謝申し上げます。皆様のご支援のおかげで、無事ファッションショーを終えることができました。今年度の活動で得た学びを来年度のファッションショーの活動、またそれぞれの制作に生かせるよう取り組んでまいります。改めまして、ご支援に深く感謝申し上げます。



現代音楽研究会club MoCo「第三回定期演奏会」への活動支援

現代音楽研究会club MoCoについて

2021年7月、“現代音楽研究会 club MoCo”は京都市立芸術大学の公認同好会として創立しました。現在約40名の学生が在籍しており、顧問には本学で教鞭を執っておられる作曲家の酒井健治氏を迎え、現代音楽の演奏・研究に努めています。



活動を終えて

今回の演奏会では、当団体過去最多となる167名の来場があり、前年度から実施していたフライヤー挟み込みや芸祭模擬店での宣伝だけでなく、SNSで効果的な宣伝動画を日々更新する、ポストカードをギャラリーや飲食店、他大学等に配置するなどといった広報活動がこのような集客を博したと考えます。

終演後に寄せられた感想は、1時間に及ぶ大作のインパクトや完成度から、現代音楽の魅力や可能性が観客に伝わったことが際立つ非常に高評価なものが多数でした。演奏の技術や表現力で難解な現代音楽を美しく表現した点を称賛いただき、練習や勉強会の成果が現れたと感じます。また、作成に力を入れたプログラムノートが複雑な現代音楽への理解を深められたとのご意見も多数頂戴し、来年度以降も尽力すべき点だと考えます。

演奏会の運営や楽譜発注や著作権管理など、プロの音楽家として必要となる実務能力を培うことも全体的には達成でき、予期せぬ出費や演奏会直前のトラブルへの対応などからも学ぶ点が多くありました。

のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

この度はご出資いただき、誠にありがとうございました。この演奏会の成功は、ひとえに皆様方のお力添えのおかげです。挑戦的な分野である「現代音楽」に京都芸大の学生として主体的に取り組む上で、いただいたご支援は大変心強かったです。当団体は今後とも、現代音楽の普及の一翼を担うべく精力的に活動を続けて参ります。

修士課程の学生による二人展「Pocket」への活動支援



二人展「Pocket」

美術研究科構想設計専攻1回生 竹内 咲風
美術研究科版画専攻1回生 森吉 由衣
会期：2024年11月20日～11月24日
会場：kumagusuku
(京都市中京区壬生馬場町37-3)

活動を終えて

今回の展示では、情報が溢れ、簡単に情報を発信し受け取ることも可能になったそんな今、情報に埋もれた物事をどのように見て語ることができるだろうか。というコンセプトの元、「情報」を得るのと引き換えに「想像」を失っていないかということを問題提起とし、鑑賞者に投げかけることを目的の一つとして行った。

展示のコンセプトをあえて抽象的な文章にしたり、手がかりや答えとなりうるようなキャプションは展示のルートの最後でわかるように導線を意識した展示となった。

その結果、鑑賞者対話を重ねる中で、私たちの作品を思い思いに想像し、鑑賞者自身の「想像」という行為を引き出せた一方で、私たちも様々な視点から作品を改めて見つめ直すきっかけとなった。

今回の活動を通して、現代における問題意識を見つめた上で私たちなりの表現を追求し、形にすることが今の時代を受け止める「器」となり、芸術における一つの役割のように感じられた。今の時代を生きる私たちだからこそ、見聞きし考えられる事が存在している。だからこそ制作を通じてその存在を表現することが私たちにできる事であり、いかに大切であるかを学ぶ事ができたと思う。

のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

未来の芸術家支援「のれん百人衆」のご支援のおかげで展示の際の選択肢が広がり、有意義な展示となりました。またこの展示を通して得た新たな気づきを今後の活動に活かしていきます。改めまして、本展示の開催にご支援頂きましたのれん百人衆寄付者の皆様へ心より感謝申し上げます。

グループ展「自分を通して人を見る。自分を通して人を描く。」への活動支援

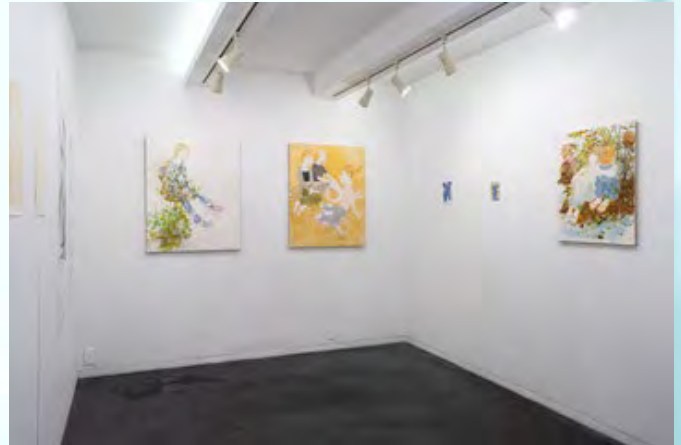
企画内容

橘・中原は共に絵画を表現する上で人物を描く。双方の主題や表現は異なるが、人物造形を行う過程での思考には多くの共通点が見られる。美醜・性別・人種・文化など一つの人物造形の中には主題を表現するための多くの意味が包括される。私たちはそれらをどう選択し、表現するのだろうか？これは両作家のみが共有しているものではなく、いつの時代も多くの表現者が感じる問題ではないだろうか？本企画では、上記の論題について考察・共有するため①冊子刊行、②トークイベント、③2人展による作品発表、④本企画全体のアーカイブを行う。

美術研究科油画専攻修士2回生 橘 葉月
美術研究科卒業生 中原 実香

活動を終えて

- ・人物表現を中心とした制作を行っている橘・中原の両作家が持つ人物造形についての共通した課題を小冊子刊行・展示会・トークイベントの順に広く普及・発表した。それにより普段個人間のみで話し合うに留められていた人物造形の課題についての共有・それに対する意見交換を行うことができ、新たな知見を得たことで両作家個人それぞれの研究に貢献した。
- ・今回の活動の中にあつたトークイベントでは、深谷訓子先生を司会に、ゲストには赤松玉女先生を迎え、三者の意見をそれぞれ話すことで対話を進めた。観客からのいくつかの質問も交え、多くの新鮮で貴重な意見を聞くことで、自身の制作を客観的に見直すことができた。また、人物造形という部分的な共通点で行なった展示構成は両作家の制作内容を普段とは異なる視点から多くの人に知ってもらう機会となり、意見交換の中から始まった本企画が、人物を描いている他の作家・鑑賞者にも共感されるものだと実感し、今後もこの活動を継続・発展させたいと考えている。



のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

この度はご支援を賜りまして、誠に有難うございました。
小冊子を240部も数多く発行・多くの方に普及することができ、また展示会場の搬入・搬出などを円滑に進めることができたのも、ご支援を頂いたお陰であると、心より感謝申し上げます。今回の活動をきっかけに、今後も橘・中原は精力的な活動を続け、発展した形でこの活動を継続して参ります。改めまして、この度は誠に有難うございました。のれん百人衆の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

六甲ミーツアートbeyond2024を主としたあつめやさんの活動支援

「あつめやさん」の活動について

地域であつめたレシピ、思い出、落とし物などを、新聞や漫画、イラストなどにまとめ、そして発信し、多くの人へ繋げていくことで、生活の在り方や個人の価値を考え、記憶や場所を繋ぐことを目的に活動しています。

活動を終えて

神戸六甲ミーツアートという京都と離れた拠点で展覧会に参加することで、他作家とのつながりや地域の方々と関わることができました。それは、社会というフィールドのなかでこのような活動が持つ意義を改めて考え直すきっかけとなりました。あつめやさんというものが何かの結節点になっていくことで、社会の様々な問題や意識に関わっていくと再認識し、そして、他者と関わることがいかに難しく、また、それらを作品として昇華する為の技術を磨くことで、より多くの人びとに届けることができるということを新たに学びなおすことができました。

のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

神戸六甲ミーツアートbeyond2024では、のれん百人衆の皆さまからの支援が活動の支えとなり、作品として新聞の印刷やレシピを制作することができました。展覧会を通して、作品を多くの人に届けることができ、神戸の地域の方々との関係性や貴重な制作活動の期間を過ごすことができました。ご支援いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。



茶道部による「もみじ茶会、もちばな茶会」への活動支援



茶道部について

京芸茶道部は、12名の部員で、毎週木曜日の放課後、日本の伝統文化である茶道を学ぶクラブとして活動しています。外部から裏千家の先生をお呼びし、本格的なお稽古をしていただいています。お茶会として、芸祭での「もみぢ茶会」、新年の「もちばな茶会」を企画、開催しました。

活動を終えて

活動を通して私たちが学んだことは、茶道の細やかさや奥深さです。日々の練習では、お点前の種類の多さや作法の繊細さを勉強し、お茶会では、お点前だけでなく、生け花や屏風など、季節を感じるような空間作りを部員で考え、茶道への総合的な造詣を深めることができました。これからも、お客様へのおもてなしの心を持ち、部の活動の拡張や、日々の練習に励みたいです。

のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

この度はご支援くださり誠にありがとうございました。おかげさまで、無事2つの茶会を成功させることができました。お点前を畳の上で披露する形式としては私達にとって初めての茶会でしたが、経済的な面も含めて滞りなく実施することができ、また部員の成長や嬉しいご縁に繋がる機会にもなり、とても嬉しく思います。改めて御礼申し上げます。

成層圏気球を活用した表現活動の実践への活動支援

企画内容

私たちはスペースバルーンを用いた新たな表現活動に挑戦しました。昨年9月のえひめ南予共同気球実験では、成層圏への漆作品の輸送とその様子の撮影、機体へのドローイング、記録用の写真撮影を行いました。しかし、落下途中に遠隔通信のトラブルがあり機体の回収を断念しました。再度挑戦するため、今年3月にモンゴルでの打ち上げに参加することを予定しています。前回に引き続き成層圏へ漆作品の輸送や、新たに機体の一部となるパラシュートの製作にも取り組んでいます。

活動を終えて

自身の作品が成層圏に到達したことで、制作のプロセスに新しいゴールを見つけることができました。また、放球の体験や異なる分野間の交流をきっかけに、電子工作に初挑戦するなど新たな作品を展開することができました。今回の放球で使用するパラシュートの製作では、専門分野の知識を活かしつつ実用性にも意識を向ける必要があり、普段の制作とは異なる視点からのものづくりに取り組んでいます。

これまでは個人制作を中心としていたので、専門知識を活かして協力する大規模な活動は新鮮でした。これらの経験は私達にかけがえのない学びを与えてくれたと実感しています。



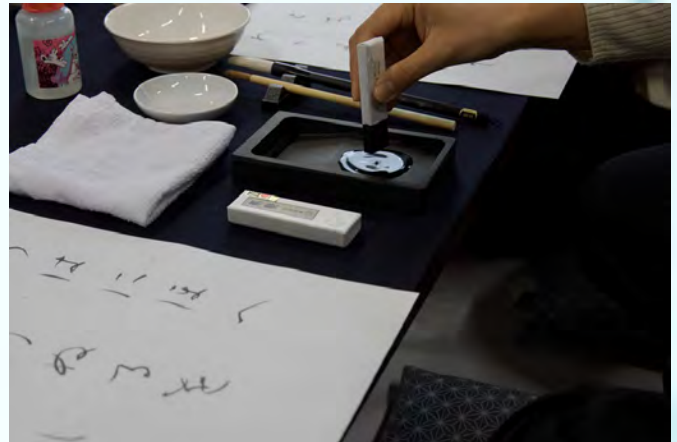
のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

私たちは、今回の制作を通じて普段の個人制作では味わえない貴重な経験を積むことができました。これもひとえに、のれん百人衆としてご支援いただいている皆様のおかげでございます。心より感謝申し上げます。なお、3月下旬には宙漆プロジェクトと共に、日本モンゴル共同気球実験に参加し、作品の撮影と映像の回収を目指します。今後も、皆様からの温かい応援を励みに、さらなる挑戦を続けてまいります。どうぞこれからもよろしくお願い申し上げます。

書道部ワークショップ「墨を磨って、筆をとろう」への活動支援

活動内容

書道部は、書道・立体・絵画などのくくりを設けず“墨を使った表現”の追求を目的として2023年6月12日に発足し、現在18名の学生が在籍しています。2023年以降、芸大祭で活動の集大成として「書道部展」を催し、独自の創作発表を行っています。今の現代人にはとても特殊なことといえる畳の上で正座をし、硯で墨を磨り筆を持ち半紙に書くという行為から、私たちは日本文化の継承に対する意義を感じています。そして今は忘れ去られようとしている日本文化を多くの人と共有したいと考え、学内から、そして学外に向けて「墨を磨り、筆をとろう」という活動を発信することを目的としています。



活動を終えて

芸大祭の書道部展に来て下さった地域の皆さまに参加を募り、墨を磨り絵や書を描く書道ワークショップを行いました。参加者の皆さまから「ワークショップをきっかけに趣味として家でも仮名を書き始めた」、「筆を持つ機会が十数年ぶりで緊張したが、楽しかった」等の暖かいご感想をいただき、活動目的の固形墨を手で持ち、硯で磨る楽しさ・正座して筆を持つ新鮮さを味わっていただくことの出来たワークショップになったと実感しています。また、墨の磨り方や筆の持ち方の指南を書道部員が行ったことにより、普段の部活動とは違った新鮮な向き合い方を体験するとともに、墨を搾り絵や書を描く魅力を再確認することが出来ました。



のれん百人衆寄付者へのお礼のコメント

この度はご支援いただき誠にありがとうございました。ご支援のおかげで、無事書道ワークショップを実施することができました。私たちは、墨を磨り筆をとることに癒しと新たな発想の予感を感じており、それを地域の人々と共有できればと考えております。今回の企画は、私たちが改めて社会と日本文化の繋がる接点を見出す大きなきっかけとなりました。皆さまへの感謝の気持ちを忘れず、引き続き発信を続けていきたいと思ひます。



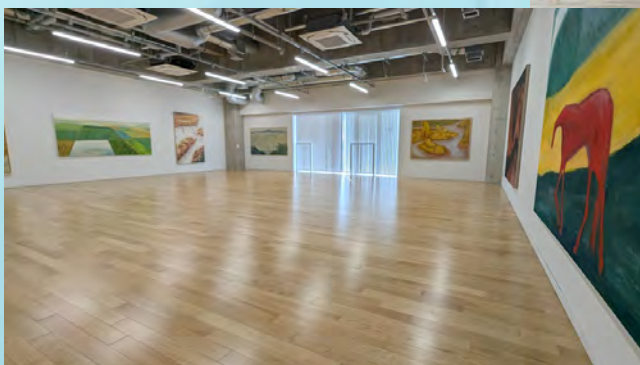
美術研究科日本画専攻への活動支援

修士課程の学生は、自身の作品をさらに深く追求すべく、研究制作活動に日々取り組んでおります。

学部生の時とは違い、より専門的に研究を進めるには、作品制作に必要となる画材はより高額なものとなり、必然的に学生への負担が大きくなるのが実情です。

今回のご支援はそのことをご理解いただき、美術研究科日本画専攻一回生、二回生を対象に、作品制作に対する画材補助としてご提案いただきました。

その成果として、2月に行いました進級・修了作品展でそれぞれの研究作品を発表するに至りました。特に修士課程の二回生は、学生生活最後の作品発表で、力のこもった大作が発表できたことは、ご支援の賜物だと感謝いたします。ありがとうございました。



保存修復専攻への活動支援

文化財の保存修復に関する人材育成に活用させていただきました。

令和6年度は以下の活動を行いました。

1. 無鄰菴障壁画（東壁）の解装および修理
無鄰菴洋館2階の障壁画のうち、東壁の障壁画の修理
2. 久多自治振興会《釈迦十六善神像 一幅》の修理
昨年度に引き続き、本紙の旧裏打ち紙の除去
3. 西川桃嶺《玄武洞図》《円山川図》の展示
学生が調査・修理の過程で得た知見を活かし、芸術資料館特別展「京都芸大〈はじめて〉物語（第三期）」（令和6年9月21日～11月24日）に、一昨年・昨年度に修理をした西川桃嶺作品を展示



無鄰菴障壁画（東壁）の保存状態の調査

「アートスペース k.kaneshiro」への運営支援

「アートスペース k.kaneshiro」の運営に活用させていただきました。

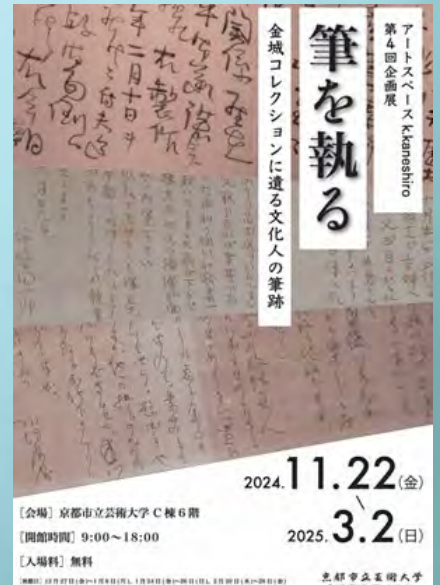
本学教員とキュレーターの指導のもと、運営に携わる学生からの意見を反映しながら展覧会を企画立案し、令和6年度は3回の展示を行いました。フライヤーやリーフレットなども学生によるデザインです。



第2回展
美工・絵専時代の上村松篁
ー若き日の異色作をめぐって



第3回展
源平合戦図屏風ー其の壱
いざ参らん、一の谷の戦いへ！



第4回展
筆を執るー金城コレクション
に遺る文化人の筆跡

美術学部・美術研究科「作品展」への開催支援

美術学部1回生から美術研究科修士課程の学生約700名の学生が出品する、まさに未来の芸術家の作品が集結する大規模な美術展覧会です。令和7年2月7日から11日まで、本学キャンパス内で開催しました。

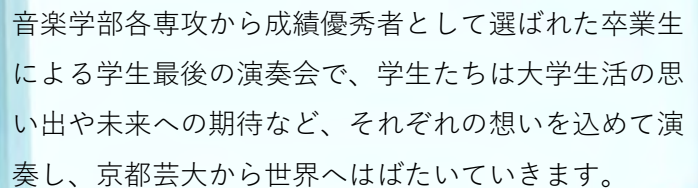
学生たちの将来的活躍を期待する重要な展示であるとともに、そこに至るまでの研究・学習の道程を示す教育的展示にもなっており、この作品展を通じて学生たちは大きな成長を見せてくれます。



第176回定期演奏会 大学院オペラ公演
「ドン・ジョヴァンニ」への開催支援

本学のキャンパス移転後はじめてとなるオペラ公演を、令和7年2月17日に堀場信吉記念ホールにて開催いたしました。演目は1787年にモーツァルトが作曲したオペラ「ドン・ジョヴァンニ」です。現在もなお世界中で上演され続けるモーツァルトの傑作を、声楽専攻生の熱演と、アカデミーオーケストラによる演奏により、多くの来場者に会場でお楽しみいただきました。多くの来場者の前で、歌い、演奏できることは、公演した学生たちにとってこの上ない経験となりました。





のれん百人衆成果報告会

